

くまもとの文化財

＝黒橋貝塚＝

下益城城南町



(上)洪水直後に露出した貝塚(昭和47年8月)

(下)貝層の堆積状態。この中に土器や石器が含まれている。

黒橋貝塚は古代遺跡が県下で最も多い城南町にあり、国指定史跡の塚原古墳や御領貝塚などについて、昭和47年8月、県指定史跡に指定されています。

従来、まったく知られていない貝塚でありましたが、昭和47年全県下を襲った大水害の時、城南町を西流する浜戸川の決壊によって、水田の下から姿を表わしたものであります。露出部分をもとにして、貝塚の範囲確認調査や、浜戸川改修工事に伴う緊急調査が行われました。

調査の結果、貝塚は広範囲に亘って分布し、約1.5mの貝層の中には、縄文時代後期の土器や石器をはじめとして、食料としたカキやハマグリ、動物の骨など豊富な遺物を包蔵していることが確認されました。

浜戸川改修工事の際には、計画を一部変更して貝塚の保存を行い、現在は、水田と川床となっており、本格的な発掘調査が実施される日をじつかに待っています。



出土した縄文時代の土器

明日の熊本
明日の私学教育に想う

私の提言



花田 衛

「未来をひらき生きがいに応える教育の振興」というのが熊本県政主要施策の一つであり、人間自らの個性と能力の伸張を図り未来をにう創造力豊かな人材を育成するために学校教育の拡充、社会教育の充実、県民総スポーツの振興、特色ある芸術文化の発展を期すことが行政目標となっていることは既に県民周知のことである。

戦後におけるわが国教育の理念はいまさらあげつらうまでもなく日本国憲法、教育基本法をはじめ教育関係諸法規にうたわれているように個性の尊重、人格の完成を目指した平和的な国家及び社会的形成者の育成を期して行われねばならないことにあるのである。従って本県教育行政の目標はまさにこれにかなった適切なものであることは言うまでもない。

戦後教育三十年、国内情勢の推移と国際社会の激動変転などの影響もあって近年とみに教育の問題特に学校教育のあり方が国民の大きな関心の的となり、あるいは教育の荒廃として論議され、あるいは教育の危機として叫ばれるようになり学校教育についての再検討がいわば国民的重要課題の一つになってきた感がある。「学校は死んだ」「日本をダメにした戦後教育」「日本には教育がない」等々の題名の書籍が店頭を賑わしているのもその証左であると言えるであろう。これはほど学校教育の問題が国民の声として大きく盛り上ったことはわが国学制百年の歴史の中でも嘗てなかったことのようにさえ思われるのである。

3法(私立学校法・私学振興会法、私立学校教職員共済組合法)の支えとによって何とか困難を克服して立ち直りをみせたのであった。然しながら目覚しいわが国復興の基盤ともなった高度経済成長は諸経費の高騰をもたらした経営維持のためには年々多額の授業料増額を父兄に強いる結果となり今日では本県でも公立高校の校納金格差は約五倍にも及ぶ程であり殆ど限界に達していると言わねばならない。

(熊本県私立中学高等学校協会会長)